

令和元年11月8日

## 令和元年「まほろば会秋の見学旅行」資料

上野国・越後国遺跡巡りの旅（上野三碑・笹山遺跡・日本のポンペイ）

令和元年11月8日（金）～11月10日（日）

まほろば会

## はじめに

今回の見学旅行は「上野国・越後国遺跡巡りの旅」と銘打って、平成29年にユネスコ「世界の記憶」に登録された「上野三碑（こうずけさんび）」そして「縄文土器としては初の国宝」である「火焰型土器」を出土した「笹山遺跡」の見学などまたまた話題満載の企画です。

そして「日本のポンペイを訪ねる」と「ご案内」でもPRした通り、榛名山の噴火によって地下に埋もれた遺跡群を訪ねます。

旅行初日は先ず「上野三碑」の見学から始まります。上野三碑とは、群馬県（古代の上野国）高崎市南部地域に所在する、飛鳥・奈良時代に造立された三つの石碑の総称です。「日本国内で現存する平安時代以前の古碑はわずか18例に過ぎず、高崎市域における三例の集中は、歴史的にきわめて特筆されます。」（高崎市教育委員会作成パンフレットより抜粋）

今回の旅行で見学するのは、（アクセス上その他の理由から）三碑の内の「山上碑を除いた」二碑になりますが、最初に訪問する「多胡碑記念館」で、現物と見間違えるほど精巧な「山上碑のレプリカ」を間近で見ることが出来ますのでご安心ください。初日には、そのほか「群馬県立歴史博物館」に寄ります。宿泊は「越後湯沢温泉」でゆっくりとお寛ぎください。

二日目には、当会ではとても珍しいことですが「星峠の棚田」を見学します。新潟県十日町市には多くの「棚田」が点在していますが、その中でも代表的な棚田でその美しい風景に皆さんの心は虜にされることでしょう。そして、十日町と言えば何と言ってもあの「火焰型土器」ではないでしょうか。今から約5,000年前の縄文時代を代表する土器で、ここ「笹山遺跡」の発掘調査で出土し、見事「国宝」となりました！この国宝が展示してあるのが「十日町市博物館」なのですが、何とこの博物館は今年の12月からしばらくの間閉館します。我々はとても運がいいですね！そのあと、時代はグリーンと飛んで中世に創建された魚沼市の「赤城山西福寺」で、幕末の名匠「石川雲蝶」が6年間かけて作成した「道元禅師猛虎調伏の図」をお楽しみください。

最終日には、先ず「山王廃寺跡」を見学します。80メートル四方の回廊に囲まれ、北に大きな講堂が建ち、その南に塔と金堂が東西に並ぶ「東日本最古の本格的寺院が前橋にあった！」のです。そしてそして、初日に訪問することが出来なかった「（上野三碑のうち一番古い）山上碑」に書かれている「放光寺」（碑造立者の「長利」は放光寺の僧）と同一である可能性が高いのです。今からワクワクしますね。次の見学地は「総社古墳群」です。古代上野国は大和朝廷を支える大国として重要な役割を果たしていました。とりわけ前橋市総社・元総社地区は群馬を代表する総社古墳群・山王廃寺・国分寺・国府などの古墳時代終末期から飛鳥・白鳳文化、律令社会に至る重要な遺跡が集中しています。とりは高川幹事のガイドで訪ねる「日本のポンペイ」です。平成24年11月に「甲（よろい）を着た武人」の発見で一躍有名になった群馬県渋川市の「金井東裏遺跡」、古墳時代の集落であった「黒井峯遺跡」や、馬の遊牧地であった「白井・吹屋遺跡」を見学します。

2泊3日の「まほろば会上野国・越後国遺跡巡りの旅」を十分にご堪能ください。

幹事一同

## 令和元年度 まほろば会秋の見学旅行（上野国・越後国遺跡巡りの旅）予定表

<日程> 令和元年11月8日（金）から10日（日）までの2泊3日の旅行です。

<集合> 11月8日（金）12時10分までにJR「高崎駅」新幹線改札口を出たところ付近に集合します。

\*全員集合ののち貸切の「多野観光バス」（解散まで一緒）に乗り、下記「見学予定地」を回ります。

<解散> 11月10日（日）16時15分ごろ「高崎駅」にて解散します。

<見学予定地>

11月 8日（金）	多胡碑記念館	高崎市吉井町池1085	TEL027-387-4928
	金井沢碑	同 山名町字金井沢2334	
	群馬県立歴史博物館	同 綿貫町992-1	TEL027-346-5522
	（宿泊地）越後湯沢温泉「湯沢グランドホテル」	南魚沼郡湯沢町大字湯沢2494	TEL025-784-2351
11月 9日（土）	星峠の棚田	十日町市星峠 TEL0257-57-3345(十日町市観光協会)	
	十日町市博物館	同 西本町1-382-1	TEL025-757-5531
	笹山遺跡	同 中条乙3081番地ほか	
	（昼食）小嶋屋総本店にてへぎそば	同 中屋敷758-1	TEL025-768-3311
	西福寺開山堂	同 魚沼市大浦174	TEL025-792-3032
	（宿泊地）前橋市「グレースイン前橋」	前橋市千代田町5-20-6	TEL027-235-1000
	（宴会場）「庄や前橋店」	同 千代田町5-1-4	TEL027-236-0431
11月10日（日）	山王麁寺跡	同 総社町総社 TEL027-280-6511 (前橋市教育委員会)	
	総社歴史資料館	同 総社町総社1584-1	TEL027-212-2558
	蛇穴山古墳	同 1587-2	
	宝塔山古墳	同 1606	
	総社二子山古墳	同 植野368	
	（昼食）「上州物産館」	渋川市渋川3695-2	TEL0279-24-3808
	金井東裏遺跡	同 金井1837 TEL0279-52-2513 (群馬県埋蔵文化財)	
	黒井峯遺跡	同 中郷	
	白井・吹屋遺跡	同 子持	
	赤城歴史資料館	同 赤城町勝保沢110	TEL0279-56-8967
	群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館	同 北橋町下箱田784-2	TEL0279-52-2513

## 上野三碑(こうずけさんび)

- 奈良・飛鳥時代に造立された三つの石碑の総称です。日本国内で現存する平安時代以前の古碑はわずかに18例に過ぎず、高崎市域における三例の集中は、歴史的にきわめて特筆されます。三碑はいずれも国の「特別史跡」に指定されています。
- 石碑を建てる文化は、中国から朝鮮半島を経由し、飛鳥時代にもたらされたものです。このため、当地域の豪族の地域経営には「渡来人(新羅系)」が参画し、三碑の造立にも大きな影響を与えたと考えられています。
- 上野三碑は、古代東アジアの文化交流を示す重要な記録物として、平成29年にユネスコ「世界の記憶」に登録されました。

### I. 山上碑(やまのうえひ)及び古墳

※残念ながら今回現物は見学できませんが、「多胡碑記念館」にある精巧なレプリカで勉強します。

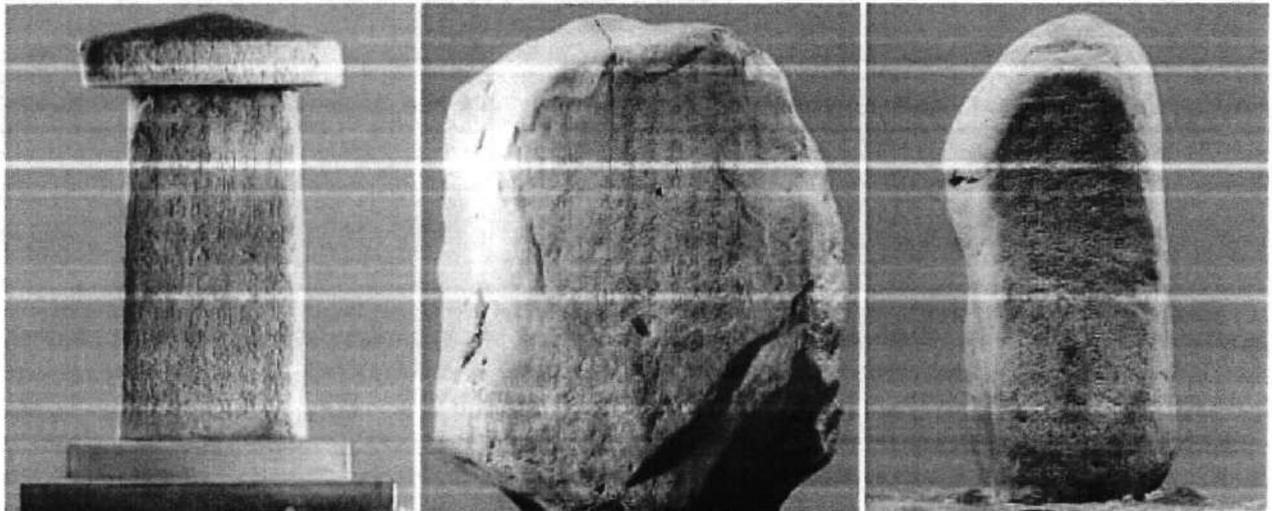
- 山上碑は、完全な形で残る日本最古の石碑で、天武天皇の時代「681年」に造立されました。碑文は、「佐野三家(さのみやけ：屯倉：6~7世紀にかけて各地の軍事・経済的用地に置かれたヤマト政権の直轄地)」を管理した豪族の出身である「黒壳(くろめ)」とその子である「長利(ちより：放光寺=山王麿寺の僧)」の系譜を述べたもので、隣接した「山上古墳(やまのうえこふん)：直径15メートルの円墳」に埋葬されたとみられる黒壳の追善供養碑の性格を併せ持っています。
- 碑文は日本語の語順に漢字が並べられており、現在につながる日本独自の幹事の使用法の原形が示されています。山上碑は、自然の石をあまり加工していない形状で、朝鮮半島の新羅の石碑に類似しており、碑の造立に際しては当地の新羅系渡来人が深くかかわったと推定されます。
- 硬質の「輝石安山岩」を使用し、縦書き4行で53字が刻まれています。

### II. 多胡碑(たごひ)

- 多胡碑は、中央政府からの命令で上野国の「片岡郡・緑野(みどの)郡・甘楽(から)郡の三郡内から300戸を割き、新たに多胡群を設置したことを記念した建郡碑」で、造立は「711年」ごろ。
- 日本の正史である「続日本紀」にも「別に多胡群を置く」という記載があり、多胡碑の記述と合致します。多胡郡の範囲はかねてより中央との関わりが深い経済上の要地であったと考えられ、奈良・平安時代には上野国有数の手工業地域(窯業・布生産)に成長しています。建郡にあたっては、その経済力に期待する中央の強い意思が働いたと推定されます。
- 多胡碑は、中世・近世の文人・学者・書家の研究対象として長い研究の歴史があり、その書風は近代日本の書家にも影響を与えました。
- 笠石・碑身・台石から構成され「牛臥砂岩といわれる花崗岩質砂岩(別名『多胡石』)」を成形し、縦書き6行で80字が丸底彫りされている。

### Ⅲ. 金井沢碑 (かないざわひ)

- 金井沢碑は、奈良時代初期の神亀3年(726年)に「三家氏(みやけし：山上碑に記された佐野三家を経営した豪族の末裔とみられます。)」を名乗る氏族が、同族とともに仏教の教えで結びつき、祖先の供養・一族繁栄を祈るために造立した石碑です。
- 碑文からは、大宝律令(701年)以後に定まった行政制度(国郡郷里制)の施行が確認できるほか、郡郷名を好字で二字に改訂することを命じた「和銅9年(:46年)の政令」の実施も確かめられます。これに伴って、従来の「車(くるま)」の表記は「群馬(くるま)」(読みはそのまま「くるま」)の二字に変更され今日の県名のルーツになっています。#
- 碑文に記された一族の系譜の書き方などから、上野国でも戸籍づくりが行われていたと考えられます。このように本碑は、古代東国の家族関係・氏族関係、仏教の普及と有力な仏教教団の成長、地方行政制度の実態などを知るうえできわめて重要な史料です。
- 硬質の「輝石安山岩」を使用し、縦書きで9行112字が刻まれています。



多胡碑

金井沢碑

山上碑

#### 【参考】

- 加藤謙吉先生著「東国石文の古代史(吉川弘文館・1998年)所収の『上野三碑と渡来人』から抜粋
- ◎多胡郡の郡名「多胡」については、渡来人(胡：えびす)が多く居住したことを意味し、建郡の際に新たにつくられた郡名であるとする説が有力である。確かに隣郡の甘良(甘楽)郡という郡名、および甘良郡より多胡市に編入された韓級(からしな)郷の郷(里)名は、「から」(韓)に基づくもので朝鮮系渡来人(韓人)の集住地であったことに因む名とみられる。中略 かくして多胡郡とその周辺地域は、渡来人の一大居住地と見做すことが出来、「多胡」の郡名が上述のような理由によって成立した可能性は少なくないと思われる。ただ、中略 奈良・平安時代の史料の多くは郡名を「多胡」と記すが、一方で「多古」の郡名表記も使用されている。すると郡名の由来についても「胡の多い」地域であるため「多胡」の郡名が考案されたのではなく、多胡・多古の地域名が建郡以前から存在したと理解することが出来る。中略 むしろ筆者は、「多胡」の郡名や郷名を特定の渡来系氏族と結び付け、吉士系氏族の多具吉士の「多具」に通じるとされた原島礼二氏の説に魅力を感じる。後略

## 多胡碑記念館



- 日本三古碑のひとつ多胡碑に隣接して建てられた博物館が多胡碑記念館。なぜひとつの碑に博物館が必要かという、多胡碑を一目見ようと全国から訪れる人が多いから。また近年、多胡碑の周辺から多胡郡の郡衙（ぐんが＝古代の役所）の正倉とみられる倉庫群の跡なども発掘され、さらに注目されています。
- 多胡碑は、711（和銅4）年に設置された多胡郡のことを記した公文書を刻んだ碑ですが、この地にヤマト政権が渡来人を配して、機織りの技術の伝搬と牧（まき）と呼ばれる官営牧場の管理を委ねたのではないかと推測されています。
- 旧多胡郡からは糸作りの道具である紡錘車が多数出土しており、上野国の瓦はほぼ多胡郡だけで焼成したことからも渡来人の活躍が推測されるのです。多胡碑にとどまらず日本の名碑、中国の好太王碑なども紹介しています
- 同じ高崎市吉井町には辛科神社（からしなじんじゃ／古代には韓級神社）もありますが、渡来人創建の神社と伝えられています。多胡碑記念館周辺は吉井いしづみの里公園として整備され、記念館前の芝生広場には南高原1号墳（高崎市吉井町神保から移築）、片山1号墳（高崎市吉井町片山から移築）という2つの円墳が移築されています。また大賀蓮池には夏には古代蓮も花をつけます。

# 群馬県立歴史博物館

●原始・古代・中世・近世・近現代にいたる群馬県の歴史や文化の特色について、実物資料を中心に模型・映像などを用いてわかりやすく、かつ楽しみながら学べます。古代東国における中心地として栄えた古墳王国・群馬について展示する東国古墳文化展示室、館蔵コレクションや地域・学校と連携した展示など、フレキシブルな展示を展開するテーマ展示室が新設されました。

## 東国古墳文化展示室



綿貫観音山古墳から出土した埴輪や副葬品を展示

## 古代



古墳から上野三碑・上野国分寺までの古代東国

## 中世



戦乱の中でたくましく生きぬいた東国武士の地域づくり

## 近世



関東北辺の水陸交通の要衝として産業・文化が栄えた

## 【星峠の棚田】

棚田とは、山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られた水田のことをいいます。畦（あぜ）の重なる形が棚に似ていることから「棚田」と呼ばれるようになったと言われています。日本にある水田のうち、約8%が棚田だと言われています。棚田の歴史は定かではありませんが、6から7世紀に出現していたとされています。（類：千枚田、段々畑・・・）

\*定義：傾斜1/20以上ある水田・・・水平方向に20m進んだときに1m高くなる。

米どころとしての十日町市には多くの棚田が点在し、美しい風景が広がります。中でも、その代表的なのが「星峠の棚田」です。



## 【笹山遺跡】

笹山遺跡は新潟県十日町市、信濃川右岸の河岸段丘上に位置しています。縄文時代の中期から後期、それと中世の集落遺跡で、範囲は約30,000㎡に及びます。

1980年代、スポーツ関連施設等の建設の伴い7次に亘る調査が行われ、調査面積は約15,000㎡におよびました。なお、未調査地の大半は市文化財に指定され現状保存されています。

縄文時代（約4,500から4,000年前）のものとして、竪穴住居跡7基、炉跡105基や多数の土坑（どこう）、埋設土器など、また、火焰型土器、王冠型土器など、信濃川上・中流域を代表する土器が、東北・北関東・中部高地・汎北陸系など他地域の土器群を伴って多数出土しています。その他、土偶、耳飾などの土製品、石器類なども出土しています。

縄文時代の笹山遺跡は、住居跡などの分布状況から、中央に広場があり、それを取り巻いて墓域さらにその外側に住居が展開するという環状ないし馬蹄形に配置された集落跡で、このことは安定した定住生活を示すものとみられ、この地が生業活動に適していたと推測されます。

なお、中世に帰属するものとしては、堀立柱（ほったてばしら）建物跡27棟、鍛冶工房跡2棟、井戸跡など、また、青磁（せいじ）、珠洲焼（すずやき）、瀬戸・美濃焼などの陶磁器類や鉄鏃（てつぞく）、刀などの武器などが出土しています。これらにより鎌倉時代から戦国時代にかけての豪族の屋敷・居館（きょかん）を核に展開した武家集落であったと考えられます。



D地区、第16号竪穴住居跡(複式炉と柱穴)



笹山遺跡の範囲(中央部)と遺構の配置

## 『火焰型土器』

### 概要

火焰型土器は縄文時代中期を代表する土器の一種。燃え上がる炎を象った（かたどった）ような形の土器を指します。ほとんどが深鉢形で、胴部は粘土紐（ねんどひも）を貼り付けてS字状、渦巻状などの文様を施します。上部には原則として4か所に大ぶりの把手（はしゅ＝取っ手、突起）があり、鶏冠（とさか）のような飾りをつけ、その間の口縁部は鋸状の突起を連続させます。これらの装飾が何を表現したものは不明ですが、全体の姿が燃え上がる炎を連想させることから「火焰型土器」と呼ばれているようです。

また、王冠型土器も笹山遺跡から火焰型土器とセットで発見されました。形は似ていますが王冠のようにうねる口縁部（こうえんぶ）の装飾が特徴です。

これらには一部オコゲがついているものも出土していることから煮炊きに使用されたのか、また、その形から見て何らかの祭祀的な目的に使われたとの考えもあります。

### 分布

東日本全体では200以上の遺跡で出土しています。信濃川流域の新潟県、長野県北部、および阿賀野川流域の福島県西部の出土数が多く、富山県・山形県・群馬県・栃木県からも少数出土しています。出土点数の大半は新潟県域の信濃川中流域に集中しており、長岡市の馬高遺跡、十日町市の笹山遺跡、野首遺跡などで特に多く出土しています。なお、火焰型土器が初めて出土したのは長岡市の馬高（うまたか）遺跡です。

\*文、資料：十日町市教育委員会作成資料・ウィキペディアを参考、一部抜粋\*



高46.5 幅43.8cm



## 【十日町市博物館】

「雪と織物と信濃川」の3つがテーマ、具体的には「国宝 笹山遺跡出土深鉢形（ふかばちがた）土器」、  
「重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」、同「十日町の積雪用具」です。  
特に、笹山遺跡で出土した深鉢形（ふかばちがた）土器57点と石器、土製品など計928点が国宝に  
指定され「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器」として全てを所蔵し、定期的に入れ替え展示しています。  
なお、同博物館はリニューアルのため12月2日から閉館、来年6月にオープンします。

## 【赤城山西福寺（新潟県魚沼市）】

- ・山号：赤城山
- ・宗旨：天台宗の寺院として開山、その後曹洞宗に改宗
- ・本尊：阿弥陀如来・・・（曹洞宗は本来釈迦如来が本尊、そのまま継承）
- ・創建年：1534年
- ・開山：芳室租春（ほうしつそしゅん）天台宗

### 『西福寺開山堂』

開山芳室租春と宗祖道元を祀るため1857年に完成したもの。「日本のミケランジェロ」とも称される幕末の名匠「石川雲蝶」の彫刻が多くあります。

特に6年かけて道内の天井三間四方全面に施された「道元禅師猛虎調伏の図」は圧巻！



## 山王麿寺（放光寺）跡



- 山王麿寺跡（さんのうはいじあと）は、群馬県前橋市総社町にある古代寺院の遺跡。国の史跡に指定されています。全国でも珍しい白鳳時代の「豪壮・華麗な」寺院の遺跡と推定されており、発見された石製鷗尾（しび）は全国で発見例が3件しかないもののうちの2件がここで見つかっています。
- 山王麿寺跡は、群馬県中央部の榛名山南東麓を流れる八幡川と牛池川に挟まれた微高地上に位置し、西側約0.6kmに関越自動車道が、南側に国道17号が、東側にJR東日本上越線と八幡川を挟んで吉岡バイパス（産業道路）が走っています。同麿寺跡の調査は大正時代に塔心礎が偶然発見されたことに始まり、その後の調査で上毛地域では最古の、関東地方でも最初期の古代寺院跡であることが明らかとなりました。
- 1974年（昭和49年）から1981年（昭和56年）まで発掘調査が行われ、2006年（平成18年）から2010年（平成22年）には寺域を確認するための山王麿寺範囲内容確認調査が行われました。発掘調査で「放光寺」・「方光」と書かれた瓦が見つかったことで、山王麿寺は古文獻などに記された放光寺であることが判明しました。1928年（昭和3年）2月7日に「山王塔趾」の名称で国の史跡に指定され、2008年（平成20年）3月28日には指定範囲を追加のうえ、指定名称が「山王麿寺跡」に変更されました。他に、同麿寺跡から出土した塔心柱根巻石、緑釉陶器、塑像片などが国の重要文化財や群馬県指定重要文化財に指定されています。
- 山王麿寺跡の周辺には総社古墳群や上野国の国府・国分寺・国分尼寺があり、7世紀の総社町地域は上野国の中心地でした。元来の寺名は「放光寺」であり、塔の心礎や心柱根巻石、鷗尾など精緻な石造品が見ついているため、同寺はヤマト王権と密接な関係にあった古代豪族・上毛野氏の氏寺と考えられています。
- 飛鳥時代の681年（天武天皇10年）に建立された山上碑の銘文には、放光寺の僧・長利が同碑を建立したことが記されており、7世紀後半には放光寺が存続していたことがわかりますが、平安時代の1030年（長元3年）に成立した『上野国交替実録帳』には、定額寺である放光寺が寺院の体をなしていないため、その列から外してほしいとの申請があったことが書かれています。発掘調査の結果からも、寺院の存続時期は7世紀後半から11世紀頃までであったと思われます。

## 《総社古墳群》

### 総社古墳群の特徴

○ 5世紀後半～6世紀代の大型前方後円墳の築造が全盛期の古墳群

遠見山古墳・総社二子山古墳・王山古墳等

○ 7世紀代～8世紀初頭の巨大古墳時代末期の方墳群

愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳等

と、この2期にバチッと分けられ、時代の流れを物語る古墳群です。

### ①遠見山古墳

- ・ 5世紀末から6世紀初頭頃に築造（総社古墳群では最も早い時期の古墳）された墳丘で全長8mです。
- ・ 埴輪が多く出土されています。
- ・ 上下二段構築で葺石が施され外周は一重の堀が確認されます。
- ・ この時代は各地の豪族が競い合って巨大古墳を造っていました。
- ・ 遠見山の名前は、1604年の総社城の築造に際し遠見のための櫓が設置されていたことによります



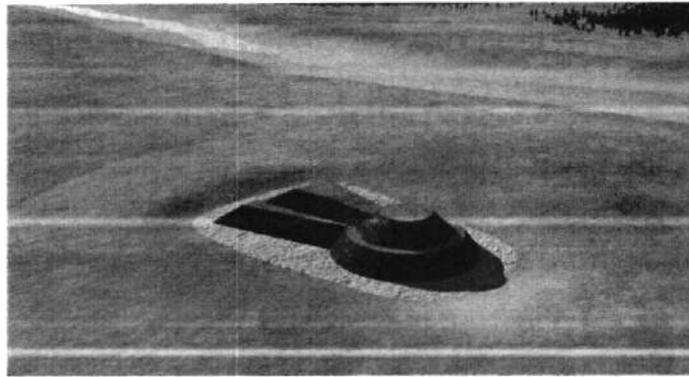
左側が後円部、右側が前方部



トレンチ：堀



くびれ部周辺からは築造当時の葺石が非常に良好な状態で見つかっています。葺石には、積み上げる基準となる石材（赤矢印）が並べられており、その間をそれぞれの担当者が分担して築き上げたようです。



想像図

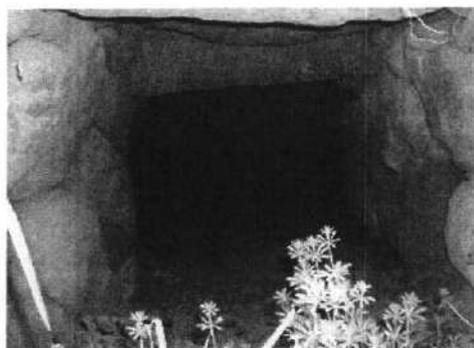
## ②総社二子山古墳

- ・総社古墳群では一番大きな古墳です。
- ・全長 89.8m、後円部径 44.2m、高さ 7.5m、前方部幅 60m、高さ 8m
- ・前方部、後円部に両袖型横穴式石室があるが、両者は工法を異にしています。



前方部から後円部を見る 前方部が大きいことがわかります

前方部石室内部



自然石を積んだもので全長 8.6m 玄室長 4.2m 幅 2.1m

後円部石室 壊れています



石室は榛名山二ツ岳から噴出したと考えられる角閃石  
安山岩の切石を瓦目積みにし、全長 8.6m 玄室長 7m



想像図

### ③王山古墳

- ・全長 75.6mの前方後円墳 後円部径 50m・高さ 4.5m 前方部幅 63.1m・高さ 3.9m
- ・二段築成で葺石、埴輪を備えており、後円部基壇上の墳丘は全て川原石で築かれています。(珍しい積石塚)
- ・後円部南東側に入口を持つ両袖型の横穴式石室があり、全長 16.4m、玄室長 4.4m、幅 1.6m、羨道部長 12m
- ・石室の壁面には赤い顔料が塗られていたそうです。
- ・現在は埋め戻されていますが、石室の位置がわかるように墳丘上には石が並べられています。

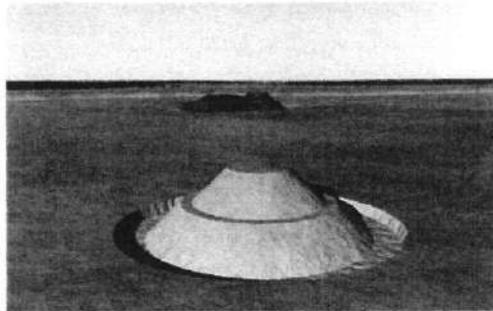


後円部

## ④大小路古墳



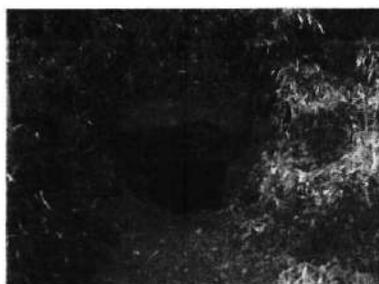
今は熊野稻荷神社が祀られている円墳  
時代不明



想像図

## ⑤愛宕山古墳

- ・一辺 56m、高さ 8mの方墳
- ・主体部は自然石の巨石を積み上げた両袖型横穴式石室  
玄室長 7m、幅 3m、高さ 2.8mと県内でも有数の規模を誇ります。
- ・玄室奥よりには、石室主軸線に直交して凝灰岩製の刳抜式家形石棺が安置されています。なお、家形石棺は県内では宝塔山古墳と当古墳のみです。
- ・二段築成で 7 世紀中頃の築造 ちょうど 645 年の大化の改新と重なります。  
大化の改新により、地方豪族の大型古墳の築造に規制がかけられ巨大前方後円墳は殆ど造られなくなりました。律令体制による中央集権政治確立の為に地方豪族の権力の象徴である巨大前方後円墳の築造を禁止しました。



石室入口



想像図



石棺

## ⑥宝塔山古墳

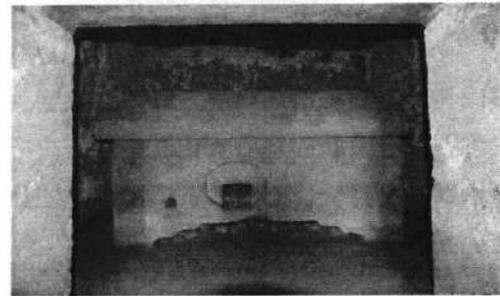
- ・一辺 55m、高さ 12mの大型方墳
- ・葺石が施された三段築成で一段目テラスに石室が開かれていました。
- ・主体部は古墳築造時の地表より 3m上の基壇上に造られ、高度の技術を駆使した切石切組積みの両袖型横穴式石室です。羨道・前室・玄室の 3 室を持つ複室です。
- ・築造期は 7 世紀末頃で墳丘の主は、大型前方後円墳の構築が禁止されながらも巨大古墳にこだわったのではないかと・・・



石室入口のテラス



想像図



石室は全長 12.5m で 3 室に区分けされ、その壁には切石が積み重ねられています。最も奥の玄室には家形の石棺が納められ、その玄室の規模は幅 3.3m、奥行き 3m もあります。石棺の脚部は格狭間形に加工されており仏教文化の影響を示しています。

## ⑦ 蛇穴山古墳

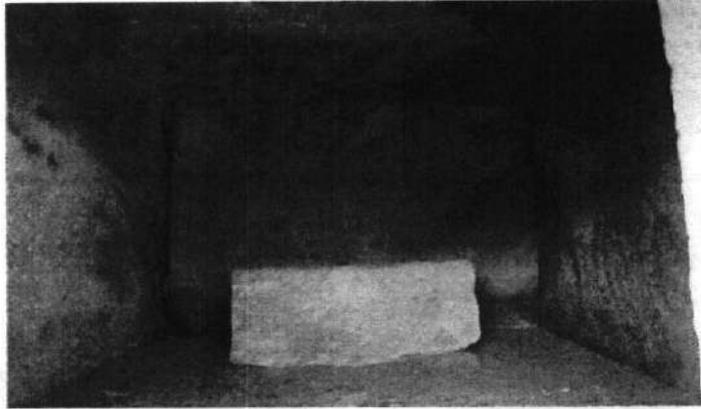
- ・ 一辺の長さが 40m の方墳で、一段目の高さが低くなった二段築成で、側面に葺石を施しています。
- ・ 石材加工の素晴らしい両袖型横穴式石室があります。
- ・ 蛇穴という名は、江戸時代に石室内に祀られた宇賀神の「ウ」を表す梵字が蛇に似ていることからついたと言われてしています。 ㄣ



石室

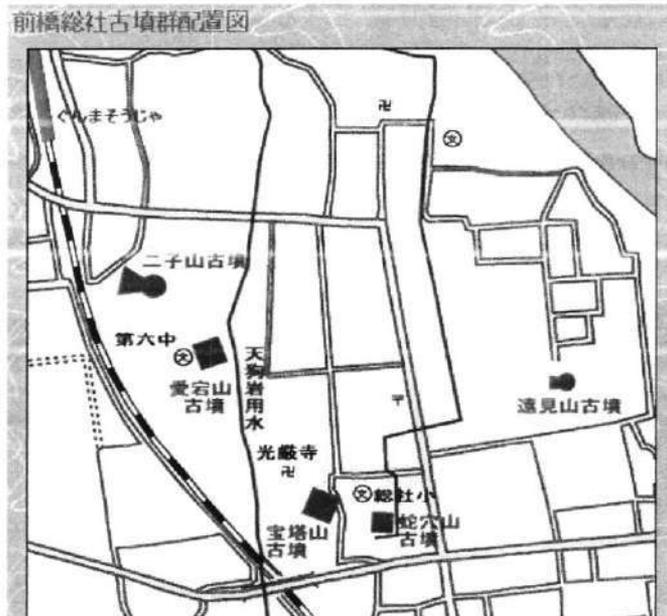


想像図



蛇穴山古墳は特に石室にこだわり、天井、側壁、奥壁に見事に加工された切石による一枚岩で構成されています。都合7枚の輝石安山岩の巨石を巧みに加工・組み合わせています。そして、石材の表面は軽く水磨きを行い、玄門の石には門の柱及び冠木に相当する部分を抉り出すなど、入念な工作を行っています。

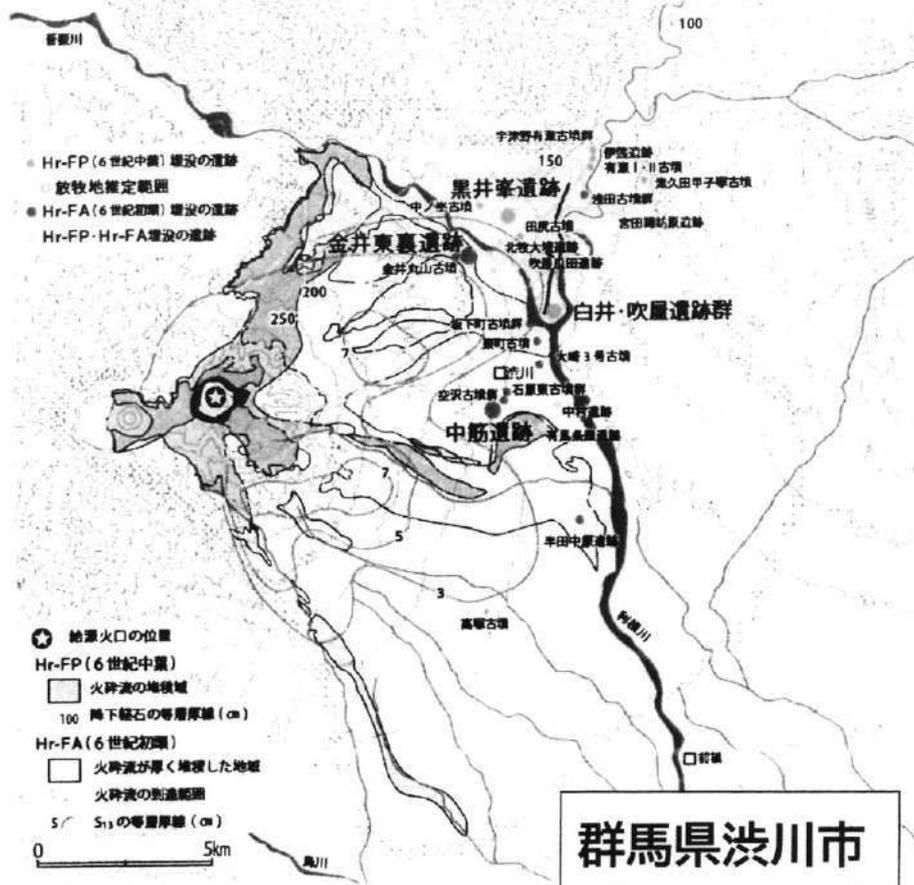
## 【総社古墳配置図と古墳の築造順】



総社古墳群とその周辺の古墳の築造順

遠見山	前方後円墳	全長80m	竪穴式石室	5世紀末	
王山古墳	前方後円墳	全長90m	横穴式石室	6世紀前半	積石塚
総社二子山	前方後円墳	全長90m	横穴式石室	6世紀後半～終末	石室2基
愛宕山	方墳	一辺56m	横穴式石室	7世紀前半	
宝塔山	方墳	一辺54m	横穴式石室	7世紀中ごろ	仏教の影響
蛇穴山	方墳	一辺40m	横穴式石室	7世紀後半	仏教の影響

# 日本のポンパイを訪ねる

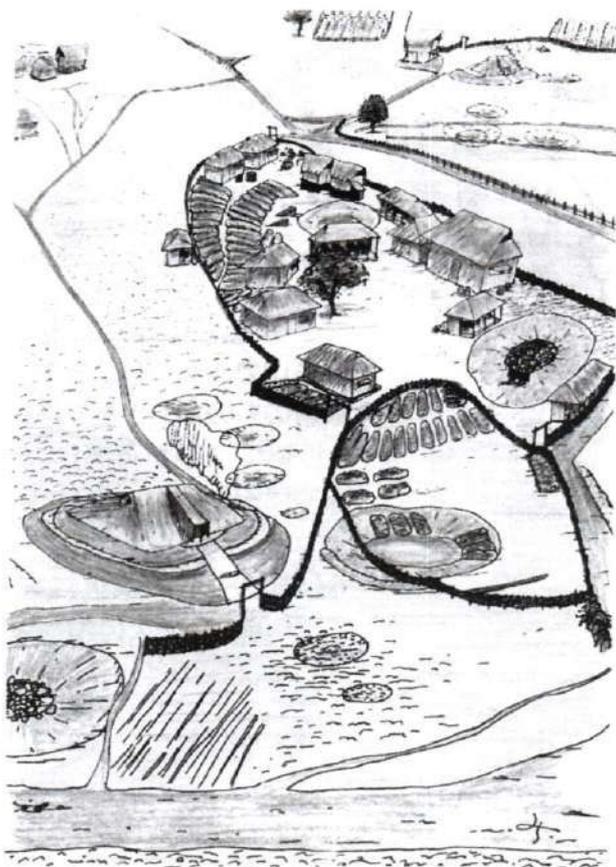


榛名山カルデラのうち溶岩ドームの最新のものがニツ岳である。5世紀に活動が再開し、6世紀中頃までに3回の噴火が発生した。

6世紀の2回の噴火は規模が大きく、大量の降下火砕物や火砕流も噴出した。(525年～550年の初夏)



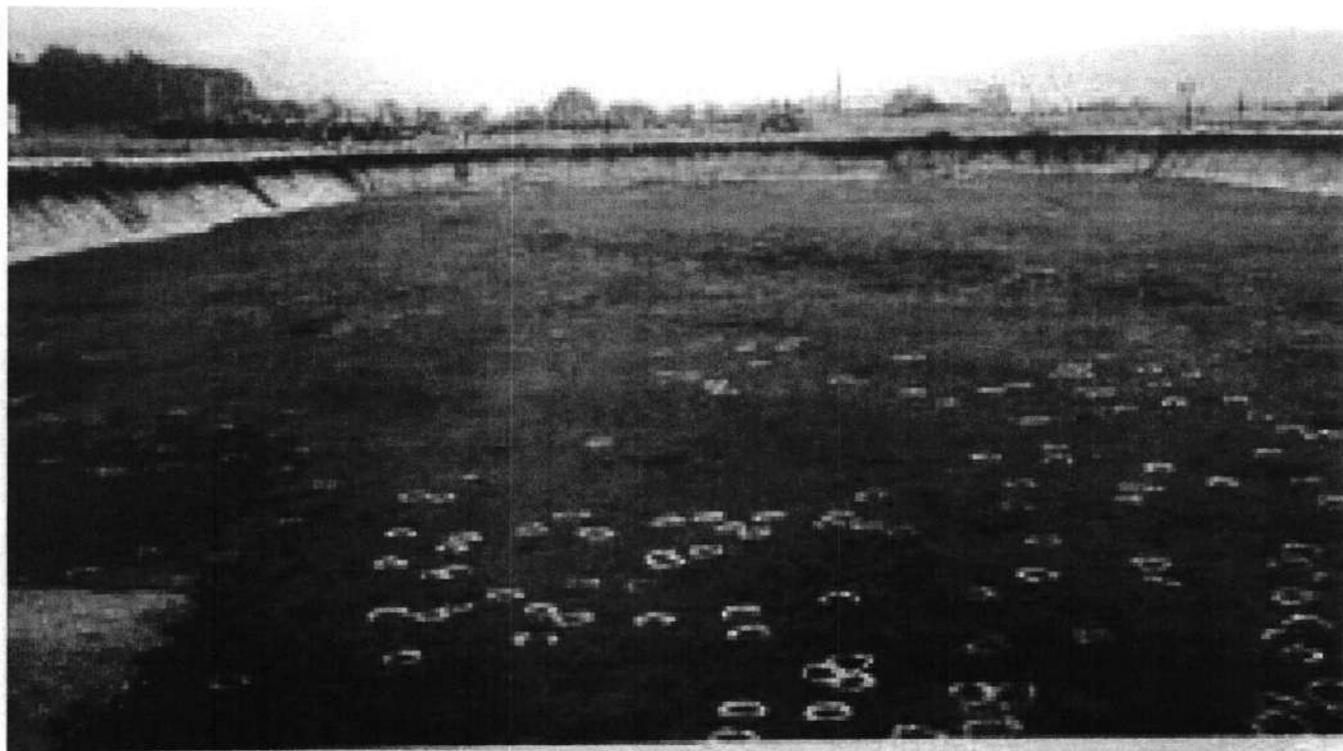
黒井峯遺跡とニツ岳遠望



黒井峯遺跡のある旧子持村一帯は、子持山南麓から流れる小河川と河岸段丘によって構成される。

軽石はこの地域一帯を覆いつくし、薄い処で50～60cm、厚い処で2mを測り、遺跡周辺は堆積の最も厚い地帯である。

大量の軽石によって、短時間のうちに埋没したため、古墳時代後期の集落が極めて良好な状態で検出され「日本のポンペイ」として国の史跡に指定された。



白井北中道遺跡 FP下で発見された放牧地と馬蹄跡

### 白井・吹屋遺跡群 古墳時代の馬の放牧地

当遺跡群は榛名山二ツ岳から10～15km離れ、軽石は厚さ1～2m程度積もっている。その下面から馬の蹄跡が見つかったのは調査開始直後の平成2年であった。蹄跡は直径10～13cm、深さ0.5～2cmの丸く底が平らな凹みであったが、その大きさ・形状・特徴から、馬の蹄跡であると判断できた。

仔馬のものもあり、この地域では馬の生産が行われており、調査範囲はその放牧地だったことが判明した。(推定範囲は約6km<sup>2</sup>にも及ぶ)

ここで飼育されていた馬の大きさは、蹄の大きさから推測すると、現在のサラブレッドよりもかなり小さく、体高125～135cm程度の中型馬であったと思われる。日本の在来馬と比較すると、木曾馬程度の大きさとなる。



金井東裏遺跡 甲(よろい)を着た武人像

甲(よろい)を着た男の謎 金井東裏遺跡(群馬県渋川市)



男性は身長164cm 細面 鼻筋通り 渡来系 40代後半  
 女性は143cm 顎がしっかり、田子鼻 古代東国人的 30代後半  
 二人は血縁関係には無く、4人は家族と見られる。

6世紀初頭、榛名山噴火の火砕流により地中に埋まっていた男性と成人女性、それに幼児と乳児計4人の人骨が発見された。(2012年11月) 人骨は九州大学で分析調査された。

(歯のエナメル質分析による生育地推定)

歯のエナメル質には10歳位までの生育地の地下水に由来する微量な元素(ストロンチウム)が含まれており、生育地が推定できる。二人のストロンチウム同位体を示す場所は伊那谷周辺(花崗岩質)であり、二人はここで成長し、後に群馬へ移住した可能性が高い。(幼児の歯の分析では榛名山の麓と判明)

伊那谷は古代の馬匹生産が盛んであったことで知られる。また男の大腿骨は、よく発達しており騎馬の習慣を持っていたことが推定されており、騎馬文化と深いかわりを持っていたことが窺える。

## 【上州物産館】(物産館公式サイトより)

渋川・伊香保温泉街道で最大級のお食事・お土産店です。売店土産コーナーでは、真心こめて製造しました「湯の花まんじゅう」「谷屋水沢うどん」をはじめとして地元銘菓、麺類、漬物、地酒、民芸品を多数取り揃えております。

### 【群馬のお土産 人気ベスト3】

1	伊香保温泉 湯の花まんじゅう
2	日本三大うどん 水沢うどん
3	群馬県名産品 さしみこんにやく

## 【水沢うどん】(Wikipedia より)

群馬県渋川市伊香保町水沢付近で名物料理とされるうどんである。

諸説あるが讃岐うどん・稲庭うどんと並んで、日本三大うどんの一つとされる水沢うどんは、水澤寺(水澤観音)付近で参拝客向けに提供されたことが始まりとされる手打ちうどんである。

麺は若干細めでコシと弾力があり、ところどころ透き通るつるつるした白い麺である。冷たいざるうどんなどで提供される場合が多い。つけ汁は、しょうゆだれやゴマだれなど、店によって異なる。

## 【水沢観音】(公式サイトより)

坂東十六番札所、有名な観音様です。

【ご詠歌】 たのみくる 心も清き 水沢の 深き願いを 得るぞうれしき

「五徳山」は水の五つの徳を讃えた山号です。

本堂(観音堂)、県指定重要文化財の六角二重塔(開運六地藏)、鐘楼堂、釈迦堂があり、釈迦堂内には釈迦三尊像や市指定重要文化財の円空仏(阿弥陀如来座像)、十一面観世音菩薩立像などが安置されています。現在、釈迦堂は特別無料拝観中です。

### 【基本情報】

五徳山 水澤観世音/水澤寺

宗派…天台宗

本尊…十一面千手観世音菩薩/秘仏

開基…恵灌僧正

創立…推古天皇の朝

ご利益…諸願成就



本堂と六角堂

## 【渋川市赤城歴史資料館】(公式サイトより)

勝保沢城址の一角にある歴史資料館では、旧石器時代からの石器、土器類をはじめ、近世、近代にいたるまでの民俗資料や貴重な文化財を展示しています。

滝沢遺跡などの出土品を展示する考古展示室を中心に、民具を用途別に展示する民具展示室(写真左)、歌舞伎や人形舞台の衣装などを展示する民俗芸能展示室、古墳から出土した埴輪類などを展示する郷土歴史展示室、近世以降の古文書や郷土の偉人などを紹介する郷土展示室があります。



考古展示室



郷土歴史展示室

## 【群馬県埋蔵文化財調査センター・発掘情報館】

群馬県埋蔵文化財調査事業団と群馬県教育委員会が発掘調査した出土物の収蔵と公開を目的とした施設です。

収蔵展示室は、基準展示と収蔵展示の大きくは二つのコーナーから構成されています。いずれの展示コーナーも展示品を手にとることはできませんが、非常に近い距離で観察することができます。

